

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2014 年 1 月

ISO/TC61(プラスチック)/SC12(熱硬化性材料)、分野の最近の動向

1. ISO/TC61/SC12 の構成

ISO/TC61/SC12 は、熱硬化性材料関係の規格の制定・改正等を担当する。幹事国は、日本で、日本プラスチック工業連盟が国際幹事を 2004 年より受諾している。議長も日本（末松征比古氏：天昇電気工業学株式会社）が受諾している。2012 年のメンバーは、P メンバー（投票権有す）が、19 カ国、また O メンバー(オブザーバ)は、12 カ国と昨年と同数となった。

表 1 のように四つの WG（作業グループ）が活動している。

WG のコンビナーは、WG1 及び WG2 は空席、WG5 はエポキシ樹脂技術協会の事務局長、栗田邦夫氏の後任である高橋泰氏、WG6 は Dr.Thomas.Conti（ANSI；USA）が務めている。WG1 及び WG2 のコンビナーについては、TC61 議長より日本から出すよう要請されており、現在調整中である。

第 62 回 ISO/TC61 年次国際会議は、9 月 9 日から中国の蘇州で開催され、同会議で審議する予定である国際規格の制定・改正状況を WG（作業グループ）別に、日本提案を主に記述する（規格の名称は簡略して示す。）。

表 1 TC61/SC12 の WG

WG	コンビナー	タイトル
WG 1	空席	熱硬化性樹脂成形材料
WG 2	空席	フェノール樹脂
WG 5	日本	エポキシ樹脂、不飽和ポリエステル樹脂
WG 6	USA	ウレタン原料

2. ISO/TC61/SC12 の審議事項

(1) WG1 及び WG2

2013 年度 Systematic Review で 8 規格が見直し投票され、内 6 規格が確認とされ、2 規格が編集後確認とされた。

また、一昨年の国際会議で日本より予備提案した「フェノール樹脂中のホルムアルデヒドの微量量分析法」は国内での再検討の結果、規格化の必要なしと判断されたため、提案を取り下げた。

(2) WG5(エポキシ樹脂、不飽和ポリエステル樹脂)

a) ISO 21048 (エポキシ樹脂) の改正

FDIS 投票の結果、100% 賛成で承認され発行される見込み。

b) ISO 4895 (液体エポキシ樹脂の結晶化傾向の測定) 改正

DIS 投票の結果、100% 賛成で承認され、提出されたコメントに対応した修正後 FDIS へ進むこととなった。

c) 2013 年度 Systematic Review で 2 規格が見直し投票され、確認された。

d) 日本より FT-IR によるエポキシ樹脂の架橋度の測定方法が予備提案された。

(3) WG6 (ポリウレタン原料)

a) 一昨年の Systematic Review で改正することになっていた ISO 25761 (ポリオール N2% 表示アジシ価) は、DIS 投票の結果、反対もなく承認されたので、発行となる見込み。

b) 昨年の Systematic Review で改正することになっていた **ISO15028**（ポリウレタン用芳香性イソシアネート）は、DIS 投票の結果、反対もなく承認されたので、発行となる見込み。

(以上)